| 寺報<br>ぜんしょうじ   | 第 6 号<br>〒272-0131<br>〒 F A X O四七 (三九七)   三二<br>  - 二 - 二 | ももまさ |
|----------------|---|------|
| 年々歳々花相似た       | IJ  | くも   |
| 歳々な            | 歳々年々人同じからず  | すしく  |
| 善昭             | 善照寺住職今、岡、達な雄・   | そ 浄  |
| 中国、唐時代の詩人に劉廷芝  | ていると、とりわけ感慨が有る・   | 辛    |
| という人がおりました。その劉 | ようで、三月の卒業、四月の入・   | 来    |
| 廷芝の『白頭を悲しむ翁に代  | 学のシーズンには必ず桜が咲   | 嘆    |
| わって』と題する詩の一節に表 | き、先生は替わらないのに、そ  | h    |
| 記した詩文があります。    | の場にいる生徒や学生は何時も  | 力    |
| 「毎年春は巡り来て同じよう  | 変わってしまうからでしょう。  | 旅    |
| に花が咲く、しかしその花を眺 | 父から住職を引き継いで足か   | Ę    |
| める人は同じ人ではない」   | け二十四年になります。寺務所  | で    |
| 春になり梅が咲き、お彼岸が  | から見る鐘楼は昔と全然変わり  | し    |
| やってくる頃になると何時もこ | ません。庭の真ん中に松の木が  | な    |
| の詩文を思い出します。長年、 | あり、本堂も昔のままです。し  | す    |
| 学校の先生をしていた父の口か | かし、去年までお参りに来られ  | 続    |
| らこの詩文を何度も聞いたよう | たおじいちゃんやおばあちゃん  | る    |
| な気がします。学校の先生をし | の内の何人かは、今年はお参り  | ŧ    |

| ということです。楽しいこ | けることが、亡き人を供養 | このような気持ちを持             | ことを思い続けてい                         | れません。何時までも                                   | 「私はあなたのことは  | れが「供養」というこ  | れた方々を思い続ける  | 生き抜き、先にお浄土  | たちに与えられた生活   | しむだけでは済みま  | とは何でしょうか。た  | では残された私たちに   | 辛いものです。  | 別れはまことに悲しく   | 往生するのが定めで   | 何時しか阿弥陀様の  | 寿の方もいらっしゃ  | 亡くなる方もあり   | 全て限りがあります   | とに残念なことに命あ   | この時期です。  | のなのだと考えさせられる  | さに、この世の中とはこん   | れる側になっているのです   |
|--------------|--------------|------------------------|-----------------------------------|--|---|---|---|---|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|---|--|--|
|              | いうことです。楽しいこ  | ハうことです。楽しハこることが、亡き人を供養 | ハうことです。楽しハこることが、亡き人を供養」このような気持ちを持 | いうことです。楽しいこることが、亡き人を供養」このような気持ちを持いのことを思い続けてい | いうことです。楽しいこることが、亡き人を供養っことを思い続けていのことを思い続けていたれません。何時までも | いうことです。楽しいこることが、亡き人を供養」このような気持ちを持ってとを思い続けてい忘れません。何時までも。「私はあなたのことは | いうことです。楽しいこ。「私はあなたのことです。楽しいこ。このような気持ちを持」このような気持ちを持っていません。何時までもことが、仕養」というこ | いうことです。楽しいこ。「私はあなたのことです。楽しいここことが、亡き人を供養」このような気持ちを持っことを思い続けていこれが「供養」というこたれが「供養」というこたれた方々を思い続ける | いうことです。楽しいここで、楽しいことです。楽しいここで、「私はあなたのことは、「私はあなたのことは、「私はあなたのことは、これが「供養」というころことが、亡き人を思い続けるく生き抜き、先にお浄土 | いうことです。楽しいこ。「私はあなたのことです。楽しいこったれた方々を思い続けていられません。何時までもこれが「供養」ということが、亡き人を思い続けていることが、亡きな思い続けるしたれたちに与えられた生活 | いうことです。楽しいこ。「私たちに与えられた生活しむだけでは済みましい。」であれません。何時までもこれが「供養」ということです。「私はあなたのことはいいにお浄土」でのような気持ちを持いのことを思い続ける | いうことです。楽しいこことは何でしょうか。たしたに与えられた生活でした。何時までも、これが「供養」ということが、亡き人を思い続けていることが、亡き人を思い続けていたのような気持ちを持ちたません。何時までも | いうことです。 楽しいこことです。 楽しいこう しょうな気持ちを持ったれた方々を思い続けていたれたちに与えられた生き抜き、先にお浄土 しむだけでは済みましいだけでは済みましたれたすとしたのような気持ちを持ってい しょうか。 たれては残された私たちに | いうことです。楽しいころことです。楽しいころことです。楽しいことです。こことを思い続けては済みたれたちに与えられた生きたちに与えられた生きたたたちを思い続けていることを思い続けるということを思い続ける | いうことです。楽しいこことです。楽しいこことです。<br>これだちに与えられた生活<br>しむだけでは済みま<br>たれた方々を思い続けてい<br>これが「供養」というこ<br>たれた方々を思い続けてい<br>このような気持ちを持<br>のことを思い続けてい<br>ることが、亡き人を供着<br>しむだけでは済みま<br>たれた方々を思い続けてい<br>このような気持ちを持 | いうことです。 楽しい いってき あってい しょうな しょう たれた ちに 与えられた おし むだけ でしょうか っことを 思い続け て しょうな 気 け たれた ち に ちん た ち に ち た れ た ち に ち た か こ と か い け で し よ う か こ と か い け で し よ う か こ と か に け で し よ う か こ と か に け で し よ う か こ と か に け で し か た か に け で し い う か に け で し い う か に け で し よ う か に け で し い う か に か に け で し い う か に か に か に か に け で し い う か に か に か に か に か に か に か に か に か に か | いうことです。 楽しい いうことです。 楽しい いうことを思い続けて しょうな気持ちを これだけでは残されたちにうえられた しに往生するのが定めで しょうか これでは 長った たれた ちち しつ たれた ちち に うか このような たれた ちんか 「 私は あなたの ことを 思い続け て しょうか いか に しょうか いか | 、<br>「<br>私たちに与えられた<br>れでは残された<br>し<br>むだけでは<br>う<br>こ<br>れたちに与えられた<br>し<br>たれた方々を思い続けて<br>し<br>たれた方々を思い続けて<br>し<br>たれた方々を思い続けて<br>し<br>たれたちに与えられた<br>し<br>し<br>たれた方々を思い続けて<br>し<br>し<br>し<br>た<br>れたちに<br>し<br>た<br>れた<br>ち<br>に<br>し<br>た<br>れた<br>ち<br>に<br>し<br>た<br>れた<br>ち<br>に<br>し<br>た<br>れた<br>ち<br>に<br>し<br>た<br>れた<br>ち<br>に<br>し<br>た<br>れた<br>ち<br>に<br>し<br>た<br>れた<br>ち<br>に<br>し<br>た<br>れた<br>ち<br>に<br>し<br>よ<br>う<br>な<br>た<br>の<br>で<br>し<br>よ<br>う<br>れた<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た | いうことです。<br>楽しい<br>うて亡くなる方もあり<br>、何時しか阿弥陀様の<br>これだ「供養」という<br>たれたちに与えられた私たち<br>に往生き抜き、先にお<br>れでは残された私たち<br>に行きするのが定めで<br>し<br>いたちにちれた<br>し<br>たれた方々を思い続けて<br>し<br>たれた方々を思い続けて<br>し<br>たれた方々を思い続けて<br>し<br>たれた方々を思い続けて<br>し<br>たれた方々を思い<br>し<br>し<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た | いうことです。<br>楽しいことです。<br>いうことを思い続けてい<br>このような気持ちを持<br>に往生するのが定めです。<br>これだけでは残された私たちに<br>ものです。<br>これた方々を思い続けてしまし<br>でしょうか。<br>たれたちに与えられた私たち<br>にものです。<br>に往生するのが定めです。<br>に<br>れでは残された私たち<br>に<br>ものです。<br>に<br>たれた方々を思い続けて<br>し<br>むだけでは済みま<br>たれたちにしょうか。<br>た<br>れでは<br>が<br>「<br>供<br>時<br>し<br>むだけで<br>し<br>よ<br>り<br>た<br>れたち<br>に<br>ち<br>に<br>た<br>れた<br>ち<br>に<br>に<br>し<br>む<br>だ<br>た<br>れた<br>ち<br>に<br>し<br>む<br>た<br>れ<br>た<br>ち<br>に<br>し<br>む<br>た<br>れ<br>た<br>ち<br>に<br>に<br>う<br>れ<br>に<br>に<br>う<br>れ<br>に<br>に<br>に<br>う<br>た<br>れ<br>た<br>ち<br>に<br>に<br>う<br>た<br>の<br>が<br>に<br>の<br>の<br>が<br>に<br>の<br>の<br>が<br>に<br>の<br>の<br>の<br>の<br>に<br>し<br>っ<br>の<br>の<br>が<br>に<br>し<br>っ<br>の<br>の<br>の<br>が<br>に<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>に<br>し<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の<br>の | いうことを思い続けて<br>、「私はあなたのことです。<br>それでは残された私にした<br>でしたちに与えられた<br>ものです。<br>これが「供養」というたれた方々を思い続けて<br>したれた方々を思い続けでしょうか。<br>に往き抜き、先におし<br>たれたちに与えられた私<br>におません。何時まことに<br>がっしょうか。<br>におません。何時まで<br>して<br>したが、<br>にき<br>たれた方々を思い<br>に<br>たれたちに<br>し<br>たれたち<br>に<br>ち<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た | いうことを思い続けて、 してにおったのです。 楽しいでのです。 いうことを思い続けてしょうなる方ものです。 これだけでは残された方々を思い続けでしょうかでしょうな気がでしょうかでしょうなたのことを思い続けでは済み いろことを思い続けでは うかに して (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) | いうことを思い続けてしたしたことです。<br>楽しいことに残った<br>にたちに与えられた生活<br>でしたちに与えられたものが定めです。<br>、「私はあなたの方もいらっしか<br>でしょうなる方もあります。<br>で、私はあなたのです。<br>にたれた方々を思い続けでしょうか。<br>たれたちに与えられた私にあります。<br>にたれた方々を思い続けでしょうか。<br>たれたちに与えられたものが定めです。<br>にたれた方々を思い続けでしょうか。<br>たれたちに与えられた私たちにものが定めです。<br>にものです。<br>にものです。<br>たれたちにしょうか。<br>たれたちにしょうか。<br>たれたちにもえられたものが定めです。<br>にものです。<br>にものです。<br>にものです。<br>にものです。<br>にものです。<br>にものです。<br>にものです。<br>にものです。<br>にものです。<br>にものです。<br>にものです。<br>にものです。<br>にものです。<br>にものです。<br>にものです。<br>にものです。<br>にものです。<br>にものです。<br>にものです。<br>にものです。<br>にものです。<br>にものです。<br>にものです。<br>にものです。<br>にものです。<br>にものです。<br>にものです。<br>にものです。<br>にものです。<br>にものです。<br>にものです。<br>にものです。<br>にものです。<br>にものです。<br>にものです。<br>にものです。<br>にものです。<br>にものです。<br>にものです。<br>にものです。<br>にものでものでしょうか。<br>たたちにものがたるのがたるのがたるのがたるしたる<br>たちにものたる<br>にものたちたる<br>にものでもの<br>にものでもの<br>にもの<br>にもの<br>にもの<br>にもの<br>にもの<br>にもの<br>にもの<br>にもの<br>にもの<br>に | いうことです。楽しい<br>このような気を思い続けて<br>に、このせられた私たち<br>に行き抜き、先におりがあります。<br>で、私はあなたのす。<br>これが「供養」といらっしか<br>でしょうな気がでしょうか。<br>たれたちに与えられた私に<br>でのような気を思い続けでは済み<br>にたません。何時まで<br>したれた方々を思いがあります。<br>たれた方々を思いがあります。<br>たれた方々を思いがあります。<br>たれたちにちたりがあります。<br>たれたちにちたりがあります。<br>たれたちにちたりがあります。<br>たれたちにちたりがあります。<br>たれたちにちたりがあります。<br>たれたちにちたりがあります。<br>たれたちにちたりがあります。<br>たれたちにちたりがあります。<br>たれたちたちたりでしょうか。<br>たれたちたちたりがあります。<br>たれたちたちたりがあります。<br>たれたちたちたります。<br>たれたちたちたりたものがたのたと<br>たれたちたちたりたものがたのたと<br>たれたちたちたりたものがたのたと<br>たれたちたちたりたものがたのたと<br>たれたちたちたちたりたものがたのたと<br>たれたちたちたりたものがたのたと<br>たれたちたちたりたものがたのたと<br>たれたちたちたりたものがたのたと<br>たれたちたちたりたものがたのた<br>たれたちたりたものがたのたと<br>たれたちたりたものがたのたしよう<br>たれたちたりたものがたのたと<br>たたちたりたものがた<br>たちたりたものがた<br>たちたりたものがた<br>たちたちたりたものがた<br>たちたりたもの<br>たたちたりたもります。 |

|                                | 告し、何時も共に有ることを感じて下さい。この供養の気持ちではないでしょうか。<br>そ末すことによって、今生きてれて毎日を過ごすことによって、今生きてのです。<br>ではないでしょう。しかしまた同時<br>ではないでしょうか。<br>それても先亡諸霊のご供養に |
|--------------------------------|--|
| 山公園という公園があります。<br>だれ桜がとても見事です。 | 供 来のれたす 出ら生気と<br>合養 た時る同る 来護き持を<br>掌に の期時時季 るらてち感  |



京都知恩院の隣に円 祇園桜という名のしだれ桜がとても見事です。

|                 |  | くこれてしてい。       |                |
|-----------------|--|----------------|----------------|
| 韱<br>去          | 化 道 の 修 行 を 行 て 悟 ビ<br>い<br>て 悟 ビ<br>の<br> | カー火に烤カれるカーその時向 | 桓渠浄土(彼岸)を思し浮カ  |
| 作 耶 注 訂         | 地に達することがなぜ年二回の                             | こうの岸から早く来いと呼ぶ者 | べる第一の方法が沈み行く太陽 |
|                 | 春分・秋分の仏事の習慣になっ                             | がおり、こちらの岸では早く行 | を心に刻む日想観であり、真西 |
| お彼岸ってなーに        | たのでしょうか。今回はその謎                             | けと勧める者がいる。これが二 | に太陽が沈む春分・秋分の日が |
|                 | について考えてみましょう。                              | 河白道のお話です。向こう岸  | 極楽への願望を実現するために |
| お釈迦様の言葉(梵語、昔の   | 中国に善導大師というお坊さ                              | (彼岸)にいるのは阿弥陀様、 | 最もふさわしい時期に当たるの |
| インド語)を漢字に当てはめる  | んがおりました。観経疏(かん                             | こちらの岸で背中を押すのはお | です。この日の夕日を拝めば、 |
| 時に、そのまま音写する方法と  | ぎょうしょ、観無量寿経の解説                             | 釈迦様、白い道はお念仏、善導 | 西方十万億土の彼方にある極楽 |
| 意味する内容に翻訳する方法の  | 書)と二河白道(にがびゃくど                             | 大師はこのようなたとえ話でお | の世界を、眼前に拝むことがで |
| 二つの方法がとられました。例  | う)のたとえをお説きになった                             | 念仏を勧め、極楽浄土(彼岸) | きる。こんなことが日本の国に |
| えばアミータは音写すると「 阿 | ので有名です。法然上人もこの                             | へ渡ることを勧めました。   | 彼岸の行事を定着させたのでは |
| 弥陀」、意味する内容で翻訳す  | 観経疏を読んでお念仏を最も大                             | 観無量寿経というお経は阿弥  | ないでしょうか。       |
| ると「無量寿」になります。   | 切なものと考えるようになりま                             | 陀様の極楽浄土を想像させるた | 彼岸の七日間は迷いに溺れて  |
| パー ラミター という言葉があ | した。この二河白道と観経疏が                             | めのお話です。極楽浄土を思い | いる現実の状態を反省し、理想 |
| ります。音写すると「波羅蜜   | 現在のお彼岸の習慣に大きく関                             | 浮かべるために十六ステップの | 世界であるところの悟りの彼の |
| 多」ですが、言葉の持つ内容は  | 連しているのです。                                  | 方法が示されています。その一 | 岸、お浄土の世界に往き生まれ |
| 「迷いの此の岸を離れて悟りの  | 二河白道とは、こちらの岸は                              | 番目が「日想観」です。観無量 | ることに思いをいたし、努力精 |
| 彼の岸に到達すること」つまり  | この世(此岸)、向こう岸は極                             | 寿経にはこのように書かれてい | 進する週間です。同時にこの世 |
| 「到彼岸」になります。昔から  | 楽浄土(彼岸)、その間には燃                             | ます。「 正しく座り、西を向 | に生を受け、生活できることに |
| 「暑さ寒さも彼岸まで」と申し  | えさかる火の川と荒れ狂う水の                             | き、沈み行く太陽を観なさい。 | 感謝し、私を生み育ててくれた |
| ますが、四季折々の変化のある  | 川、そしてその間に一本の白い                             | 太陽が沈もうとするとき、その | 親や、先立たれた先亡の霊の冥 |
| 日本の気候の中で、彼岸という  | 道があります。盗賊と猛獣に追                             | 大きな真ん丸の太陽を心に刻み | 福を祈るということが大切で  |
| 言葉は仏教語というよりは、特  | われた旅人が一人、白い細道を                             | なさい。そして、目を閉じても | す。そうすることが、他の何物 |
| 別な日常語になっているようで  | 渡ろうか渡るまいか考えあぐね                             | 太陽が思い浮かべるようにしな | によっても得られない、仏様の |
| す。迷いの此の岸を離れて悟り  | ています。渡るには余りにも細                             | さい。これが日想観であり、第 | ご加護をいただくことにもなる |
| の彼の岸に到達すること、つま  | すぎる。落ちたら水におぼれる                             | 一の観想です。」       | のです。 (住職)      |

|                 |                              | るのでしょうか。きらびやかな             | 花がこちら向きに生けてあるかそれがこうか       |
|-----------------|------------------------------|----------------------------|----------------------------|
|                 | とばをかかげました。こんなこ用して、阿弥陀椋の誓にのおこ | は、ハウをハビニでどうしてハこの世を去っていった人々 | そんなことが云つるのも、おうに極楽のような風景です。 |
|                 | 冒頭には、お経のなかから引                | いるかどうか。                    | もったお花がならんで、ほんと             |
|                 |                              | えがみなさんに少しでも届いて             | わってきます。まごころのこ              |
|                 | ば、お花は墓石の方を向いてい               | ても気にかかります。仏教の教             | 持ちが、私の方にも不思議と伝             |
|                 | 思いではない。もしそうなら                | そんなときに私はいつも、と              | をおそなえなさった皆さんの気             |
| (副住職 達彦)        | お花を亡き人にささげるだけの               | ます。                        | お墓のあいだを歩くと、お花              |
| んのお墓です。         | けれど、その思いはどうして、               | がひしひしと伝わってき                | वे                         |
| まさに極楽のような、おひが   | められている。こめられている               | からないのですが、何か                | んは、お墓まいりのシーズンで             |
| රිං             | くなっていった方への思いがこ               | ちは、大きすぎてよくわ                | のお花でかざられます。おひが             |
| 見る私にも、それを分けてくれ  | い合ってみます。そこには、亡               | お参りしている方の気持                | と、善照寺のお墓も色とりどり             |
| と思わされます。そしてそれを  | お花でいっぱいのお墓と向か                | いお墓です。そのお墓に                | おひがんのシー ズンになる              |
| 中からやってきたのではないか  | er<br>er                     | お花がいっぱいの、美し                | e<br>I                     |
| の美しい花々は、その安らぎの  |                              | た。いつもみずみずしい                |                            |
| 誓ってくださった阿弥陀様。こ  | ない。私はそう思います。                 | とあるお墓がありまし                 | (阿弥陀仏のお誓い)                 |
| も、大いなる安らぎを与えると  | りない。それが本当の極楽では               |                            | 忍んでけっして悔いない」               |
| 人々、私にも、この亡き人に   | れもいいけれど、まだ何かが足               |                            | たとえなったとしても                 |
| です。不安におののくすべての  | る。そう思いこむのもいい。そ               | ません。                       | この身をとどめることに                |
| も、なぜか同じものを感じるの  | 人はあの世で幸せにくらしてい               | お花をおそなえする方はおられ             | 果てしない苦の中に                  |
| 美しいお墓を見ているとき    | の気持ちは我慢できません。故               | す。お墓にも、石の方に向けて             | 大いなる安らぎを与えよう               |
| と思っています。        | いないで帰ってきてほしい。そ               | は見えないようになっていま              | 一切の恐れおののく人に                |
| そ、阿弥陀様の正体ではないか  | とはあっても、そんなところに               | るはずのものなのに、仏様から             | 如来の力をいただいて                 |
| それを私に感じさせるものこ   | そう思って多少いやされるこ                | するお花も、仏様におそなえす             | 私は誓う                       |
| えます。            | でしょうか。                       | そういえば、仏前におそなえ              |                            |
| 。 言いしれぬ興奮と感動をおぼ | 仏の国で楽しく過ごしているの               | らでしょうか。                    | ☆↓ 世界   美しいお花              |

ぜんしょうじ

平成15年3月15日

(3)第6号

| ( で い と て<br>( す る さ お<br>職) うて 施 |
|-----------------------------------|
| 代おる                               |
| ま か<br>せ も<br>ん れ                 |
| していた                              |
| 句は言えませ                            |
| たもちばかり                            |
| お手製のおは                            |
| に寺の本尊へら、自宅の仏                      |
| す。これは仏                            |
| せてお考え下さい。                         |
| ます。皆様の                            |
| で千円のことも一万円の事もあり                   |
| のお布施です。                           |
| まずは、先                             |
| ・お菓子                              |
| ・お布施(あるいは志)                       |